

安全衛生・兵庫

「想定外」を想定せよ!

◆ 東日本大震災から1年が経とうとしています。この大震災では多くの人命が奪われました。その間、繰り返し述べた言葉がこの「想定外」です。想定外とは、想定できなかった事。不可抗力であり過失は無いという言い訳の言葉だと感じてしまいます。本当に想定できなかったことなのでしょう。か? そもそも「想定外」とはどういうことなのでしょう?

◆ 福島原子力発電所の事故調査・検証委員会委員長の東京大学名誉教授、畑村洋太郎氏の著書『「想定外」を想定せよ! 失敗学からの提言』。

「想定外」があるという事は「想定内」想定した範囲の中にあるわけです。「想定した範囲」とは何なのか? これについて著書には、以下のように定義しています。

■ 人間は、何かものを考えようとするときに、「これについて考える」という領域を決めないと、考えることができません。領域もなく、何かを漠然と考えるというのは、ただ単に「感じている」に過ぎないのです。

■ ある境界線(領域を区切るライン)を決めて、その中のことを考えることで、ようやく頭が働き始めます。そしてこの境界を作ることこそが「想定」です。いい換えれば、「想定」があつてはじめて考えることができるのです。

■ 何かを考えるに際してはまず想定することから始まります。そしてその「想定」の範囲内」でいると考えるといくのです。



ここまでは何ら問題はありません。問題となるのはこの後の話です。つまり想定範囲の中だけで終わりにしないということが大切なのです。「想定」とは何かの根拠があつて設定されるものではないことです。

■ どこまで厳密に「想定」したところで、必ず「想定外」の部分が残るのです。ですから、「想定」内のことを考えるだけでは不十分で、「想定外」に対する意識をもつことこそが事故や失敗を防ぎ、安全性を高めるためのカギになるわけです。想定外をどこまで想定するのか? そしてどこまで対策を考えるのか? これこそがリスクマネジメントの肝になるのです。

■ 「想定外」のことが起きて何の準備もしていなかったというのは、単なる言い逃れではなく、ましてや「想定外」だったので準備ができていなくても仕方なかったという開き直りは、あまりにもお粗末な言い訳でしかないといえます。

◆ 林業関係の安全に関する規則、基準などの決められたことは、過去の失敗や災害の教訓から失敗を繰り返さないために定められています。失敗してもその原因を追究しなかったり、やり方を改善しようとする姿勢がなければ、また同じような失敗をくり返してしまいます。

◆ 「想定外」に対する意識をもつことは、常に山には危険が潜んでいる、**くかもしれない行動、くかもしれない運転を心がけること**だと思います。滑るかも知れない、自転車が飛び出してくるかも知れない

など、常に意識し、職員間で声を掛け合い、災害の防止、交通事故の防止に努めましょう。(次長)



法定速度遵守! スピードは控えめに!

時計遺伝子って? その2

時計遺伝子の賢い活用法

◆ 時計遺伝子は人間の機能のスケジュールを司っています。何かをする時には最も効果的な時間があると知られています。そうした時間を知っておけば私たちの健康維持に役立つそうです!

問1 カルシウムが吸収されやすく骨が最も丈夫になる時間は?

答1 夜間

↓カルシウムが吸収される量は午後8時~午前0時が最も盛んで、午前中は働きが低下。午前中にカルシウムを摂取しても尿となって排出されるそうです。

問2 塩分が多いとされるラーメン。1日のうち1度だけ許される時間は?

答2 夕食時(比較的安全)

↓私たちの血液にはアルドステロンという塩分とリニホホルモンが含まれています。

とりこみホルモンが1日で1番量が少ない時間が夕食時。

夕食時に摂取したナトリウムは尿として排出されるため血圧の影響が少ないそうです。

※但し、塩分の取り過ぎにご注意を!

(テレビ番組「家庭の医学」より)



この花なあに?

発行 兵庫森林管理署 安全衛生委員会